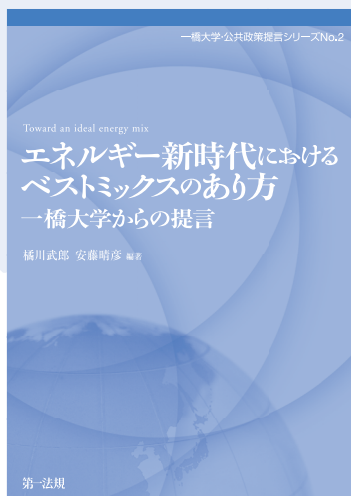


Toward an ideal energy mix

エネルギー新時代における ベストミックスのあり方 一橋大学からの提言



橋川武郎 安藤晴彦 編著

A5判・304頁 定価：本体2,200円+税

本書の特色

- 国のエネルギー関係の審議会にかかわっている様々な分野の研究者、エネルギー関連の民間企業の方々など、多彩な執筆陣が多様な立場から提言！
- 特別寄稿として、IEA（国際エネルギー機関）前事務局長の田中伸男氏からの提言も収録！
- エネルギーは国の優先政策課題とされており、「エネルギー基本計画」を読み解くうえでの最適な書！

執筆者一覧

田中伸男（前IEA事務局長）

橋川武郎（一橋大学大学院商学研究科教授）

安藤晴彦（一橋大学大学院法学研究科特任教授）

高橋 滋（一橋大学副学長、同大学院法学研究科教授）

渡辺智之（一橋大学大学院経済学研究科教授）

仮屋広郷（一橋大学大学院法学研究科教授）

島本 実（一橋大学大学院商学研究科准教授）

秋山信将（一橋大学大学院法学研究科教授）

山内弘隆（一橋大学大学院商学研究科教授）

大石博文（一橋大学研究員、国際協力銀行）

笹山晋一（一橋大学研究員、東京ガス）

富江竜哉（一橋大学研究員、J-POWER電源開発）

中沢謙二（一橋大学研究員、JX日鉱日石エネルギー）

岡崎 健（東京工業大学大学院理工学研究科教授）

柏木孝夫（東京工業大学特命教授）

巻頭言（抄）

東日本大震災と福島第一原発事故は、日本にとってのエネルギー問題の重要性を改めて認識させた。この重要課題に全学的に取り組むべく、一橋大学の研究者を結集して「資源エネルギー政策プロジェクト」を立ち上げるよう指示し、一昨年から、東京工業大学、経済産業省、エネルギー関連業界のご協力を得て、研究プロジェクトを推進してきた。産学官連携と「文理共鳴」の議論の中から、リスク・マネジメントの在り方や新たなベストミックスを含め、今後の我が国の資源エネルギー政策への提言に向けて、一昨年1月から10回の研究会で議論を重ねてきた。さらに、昨年6月には、政策フォーラム「資源エネルギー政策の焦点と課題」を独立行政法人経済産業研究所と共催し、国際エネルギー機関（IEA）前事務局長の田中伸男氏を始めとする日本と世界のエネルギー産業と政策を代表するリーダーや、東京工業大学、経済産業研究所及び本学の研究者が登壇して公開の場で議論を深めた。

本書は、この研究プロジェクトの中間的な成果を『エネルギー新時代におけるベストミックスのあり方 一橋大学からの提言』として、世に問うこととしたものである。

平成26年2月

一橋大学長 山内 進



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

特別寄稿 シェール革命とエネルギー安全保障戦略

- 1 IEAから見た世界のエネルギー最新動向
- 2 ホルムズ危機への備え
- 3 シェール革命の恩恵を取り込むパイプライン戦略
- 4 天然ガス価格の黄金時代到来と合理的な価格形成戦略
- 5 エネルギーセキュリティと有望な技術革新の動向
- 6 今後の電源構成の見直し
- 7 日本の再生可能エネルギー拡大の課題
- 8 中長期の原子力戦略と新型炉の可能性
- 9 集团的エネルギー安全保障の重要性
- 10 結び

第1章 エネルギー新時代のベストミックス

- 1 2013年参院選と原発再稼働
- 2 元に戻る再稼働か、減り始める再稼働か
- 3 「リアルでポジティブな原発のたみ方」
- 4 なぜ「リアル」と「ポジティブ」にこだわるのか
- 5 原発からの出口戦略
- 6 原子力依存度は「引き算」で決まる
- 7 「原子力依存度2030年15%シナリオ」の提案
- 8 電力システム改革は東電大リストラから始まる
- 9 1次エネルギー供給の主役はあくまで石油
- 10 ノーブルユースの徹底とガス・電力事業への進出
- 11 需要が拡大するアジア市場での輸出拡大と海外直接投資

第2章 エネルギー自給の二つの方法：原子力と再生可能エネルギー

- 1 はじめに
- 2 石油危機の教訓
- 3 原子力発電：日本のエネルギー自給に向けて
- 4 新エネルギー開発：グリーンエネルギーのイノベーションに向けて
- 5 おわりに

第3章 エネルギー安全保障における新しい地政学的要因

- 1 はじめに
- 2 エネルギー「安全保障」概念の展開
- 3 Bringing Geopolitics Back in? (地政学の再興?)
- 4 おわりに

第4章 ベストミックス達成に向けての財政的役割

- 1 はじめに
- 2 エネルギー政策の目的と「ベストミックス」
- 3 財政の果たす役割
- 4 結語

第5章 高レベル放射性廃棄物最終処分問題の現状と改革の課題

- 1 はじめに
- 2 高レベル放射性廃棄物処分に係る政策と法制度の現状
- 3 日本学術会議回答等の議論の分析—暫定保管と総量管理について
- 4 日本学術会議回答等の議論の分析—残された論点等の法的検討
- 5 まとめ

第6章 原子力発電事業におけるリスク管理と取締役の責任：福島第一原発事故を素材として

- 1 はじめに
- 2 会社法上の内部統制システム
- 3 アプローチの視点
- 4 若干の検討
- 5 おわりに

第7章 今後のエネルギー政策と石油の位置付け

- 1 はじめに
- 2 石油とは何か
- 3 我が国のエネルギーバランス
- 4 「エネルギー」としての石油と「非エネルギー」としての石油
- 5 石油をどう位置付けるべきか？
- 6 おわりに

第8章 石炭及び石炭火力発電所

- 1 石炭利用の歴史
- 2 発電における石炭
- 3 埋蔵量・資源量と供給安定性
- 4 最新鋭の高効率石炭火力発電所
- 5 技術開発
- 6 今後の展望と本章のまとめ

第9章 新たなエネルギーベストミックスと天然ガスの高度利用

- 1 新たなエネルギーベストミックス
- 2 生産（調達）面での取り組み
- 3 流通面での取り組み
- 4 消費面での取り組み
- 5 おわりに

第10章 原発停止のもたらした影響とシェールガスの実像

- 1 資源小国の実情
- 2 原発「全面停止」で何が起きたか

- 3 エネルギー・電源をめぐる「異常」な現状
- 4 「電気は足りている」の実情
- 5 中東有事リスクに脆弱化する日本
- 6 「足元を見られる」日本と悪化する国際収支
- 7 国際収支の悪化
- 8 「シェールガス」で万事解決か
- 9 アメリカエネルギー省 (Department of Energy: DOE) 認可をめぐる問題
- 10 環境リスク
- 11 シェールガスは本当に安いのか
- 12 さらなるエネルギー調達源の多様化へ
- 13 国際協力銀行 (IBIC) の資源金融

第11章 エネルギーシステム改革とスマートコミュニティ構想

- 1 はじめに
- 2 グリーンイノベーション
- 3 再生可能エネルギー特別措置法により加速される新エネルギー
- 4 化石燃料の高度利用・コージェネレーションへの期待
- 5 次世代エネルギーとスマートグリッド
- 6 都市エネルギー全体最適化とスマートエネルギー
- 7 電力システム改革とビジネス展望
- 8 エビロウグーこれからのランドデザインとは？

第12章 エネルギーネットワークの新しい考え方：電力システム改革と再生可能エネルギー全量買取制度の方向性

- 1 はじめに
- 2 電力システム改革
- 3 再生可能エネルギー全量買取制度
- 4 結び

第13章 技術開発と国際展開に関する日本のエネルギー戦略

- 1 はじめに
- 2 震災後のエネルギー情勢の劇的な変化
- 3 脱炭素社会へのロードマップ
- 4 最新鋭石炭火力—高効率・グリーンからCO₂フリーへ
- 5 水素エネルギー導入の意義—現状と将来動向
- 6 CO₂フリー水素チェーンの国際展開
- 7 まとめ

第14章 新エネルギーの技術開発政策と組織デザイン

- 1 新エネルギーの位置付けと「対策」の概観
- 2 技術開発政策における組織デザイン
- 3 新エネルギー開発における組織デザインの実例
- 4 まとめと展望

索引

お試し読み、お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

